

令和5年度 高等学校入学者選抜審議会 第2回専門委員会 記録

令和5年9月27日(水) 14:00~16:05
 県庁9階 第一会議室

＜審議会専門委員＞

熊谷 龍一委員、平吹 淳委員、小野 ゆかり委員、吉田 尚美委員、河本 和文委員、茂木 悟委員、
 佐々木 久晴委員、中山 治彦委員 (欠席：なし)

＜事務局＞

遠藤 秀樹 参事兼高校教育課長、西城 光洋 仙台市教育局学校教育課長 (欠席：なし)

事務局	(資料の確認) (公開の確認)
	(開会)
事務局	(委嘱状・辞令交付) (委員の紹介)
高校教育課長	(開会あいさつ)
事務局	(事務局関係出席者紹介) (本会議の概要説明)
事務局	(委員長の互選) (委員長あいさつ)
	(委員長 司会進行開始)
委員長	それでは、次第に従って進める。まず、審議1「高校入試におけるWeb出願について」、事務局から、適宜、区切りながら説明願う。 なお、質疑については、その都度時間をとる。
事務局	(事務局より説明)
委員長	では、本県の出願手続きの流れについて、現状の手続きでの困り感や、課題と感じていることなど、保護者、中学校、高校のそれぞれの立場から意見願う。まず保護者の立場から、平吹委員、いかがか。
平吹委員	保護者の立場で一番大変だったのが、県収入証紙の購入である。どこで買ったらいいのか分からない保護者も少なからずいる。銀行で買ったらいいのか、役所で買ったらいいのか、高校に行かないといけないのかなど、迷う方が多い。今後、購入の仕方について、改善していただければありがたい。
委員長	発言に感謝する。私自身もつい最近まで保護者の立場だったので、全く同じ思いを持っている。では、次は中学校の立場から現状について意見願う。
小野委員	10月には中学校で進路説明会が行われる。その際に、願書の書き方等について、保護者・生徒を集めて説明はするが、以前に高校入試を経験している保護者は、過去の感覚で書いたことで間違えることがある。生徒たちにも再三にわたって説明はするが、最近では自分の住所を手で書くということがないため、住所など様々な箇所の書き間違いで、訂正だらけになってしまうことも多い。事務局からの説明にもあったが、全県1学区となり、教員は出願のために県内様々な場所に出向いているが、待ち時間が長いことも確かにある。 学校としては、切手代を支出して郵送するか、旅費を支出して高校へ持参するかということも、検討する。なお、郵送のための切手代をどこから支出するかは、各学校で統一されていない。保護者から集めるところもあれば、学校、学年の進路指導費から支出するところもある。学校によってやり方が違うので、Web出願によって出願方法が統一されていくと、中学校教員の仕事はかなり軽減されると考える。非常にありがたい。

吉田委員	<p>小野委員と同意見である。使用できる願書の枚数は限られているので、訂正印が多くなってしまふ子どもがどうしても出てくる。誤りがあると、生徒へ何回も差し戻しをしながら資料を作成しなければならない。また、本校は県立高校から遠いところにあるため（女川町）、各高校へ直接はなかなか届けられない。仙台圏の高校だと郵送になってしまうため、郵送したものがきちんと届いた上で受理されるのか、あるいは誤りがあるで差し戻されるのかと、いつもドキドキしながら出願している。差し戻しがあった場合でも出願の期限に間に合うよう、余裕をもって出願しているが、Webでの出願になれば、そのような懸念も払拭できるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>それでは、高校側からも、ぜひ発言願う。</p>
中山委員	<p>私は昨年まで高校の校長を務めていたので、その経験から話をさせていただく。高校の現場では、提出される願書・調査書の内容を一つ一つ確認しているため、やはり受理の段階で負担が大きい。事務局の説明にもあったが、高校においては、中学校が持参、または郵送で出願する書類の一つ一つをチェックし、その上で、番号を付して戻す手続きを行っている。その作業に、授業の合間を縫って教員が従事し、事務職員も一緒に入ってダブルチェックを行い、間違いがないかどうかを慎重に見ている。そういった作業にあたる職員の負担が大きくなっているのが現状である。また、出願に関しての問い合わせへ対応する必要もあるため、Web出願にすることによって、ある程度その負担が軽減できるのではないかと考える。</p>
佐々木委員	<p>私も業務負担という点で感じていることは、中山委員の意見と同じである。やはり、出願書類を確認するといった部分が最も気を遣う。何かあった場合には、すぐに中学校に問い合わせる必要があり、この作業に時間をかけているところだが、一番の負担になっているのではないかと。</p> <p>ただ、Web出願になったとしても、当然、入力されたものについては確認をしていくことになる。その確認がどれぐらいの作業になるのか、まだイメージが湧かないので、すでに実施されている私立高校から話が聞ければと思う。</p>
茂木委員	<p>今、話をいただいた委員の方々とも内容が重複するが、三つほどお話する。</p> <p>一つは、やはり高校現場では受理に時間がかかるということだ。持参して下さる中学校の先生方をかなり長い時間待たせることになるため、中学校の先生方の負担も大きいと思う。</p> <p>二つ目として、私は中学校現場にもいた経験があるので、先程もお話があったが、やはり願書を仕上げるのにとっても時間がかかる。訂正印を押してもらっただけであっても、教員が勤務している時間帯に、保護者が在宅しているかということそうではない。保護者に連絡が取れる時間帯まで待たなければいけないという場合もあった。また、郵送する場合も、書留で送るのだが、あれは実は書くのも結構時間がかかる。表には出ない、目に見えない部分で、相当な時間がかかるということがある。</p> <p>最後、三つ目だが、これは私立高への出願について見聞きした内容で、情報として提供する。私立高校にWeb出願する際に、家庭のインターネット環境が良好ではないため入力ができず、コンビニエンスストアの近くでインターネットにつないで入力したという家庭があった。また、家族構成によっては、家族ではなかなか入力ができなくて、担任が時間外に出向いて入力を手助けしたこともあった。今はだいぶインターネット環境が良くなっていると思うが、情報として提供する。</p>
委員長	<p>やはり、中学校、高校それぞれに、相当な負担があることはよく理解できた。では、Web化することによって、こういった部分が可能になっていくのか、そういったところをこれからの議論の中で深めていきたい。</p> <p>では、2ページの2に進む。事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>説明感謝する。他の都道府県で導入されているWeb出願についての説明があった。令和6年度以降、全校導入を予定している都道府県が増えているようだが、すでに導入している都道府県の事例を見ると、Web上でどこまでの手続きができるかは、様々である。</p> <p>Web出願については、実際に扱ってみたいとイメージしにくい部分もあるかと思う。宮城県では多くの私立高校が導入しているようだが、本日出席の河本委員の</p>

	勤務校でも、すでに導入されていると伺っている。河本委員から、Web出願を導入してどうだったかなど、説明願う。
河本委員	(東北学院榴ヶ岡高等学校におけるWeb出願についての説明)
委員長	説明に感謝する。実際に導入されている学校からの説明、非常によく理解できた。Web出願がどのようなものなのか、具体的なイメージをもつことは、この審議の上でも、非常に重要である。河本委員の学校で導入しているシステムでは、志願者が実際にどのようにWeb上で操作していくのか、事務局の方で動画の準備もあるとのことなので、ここでその動画も紹介願う。
事務局	(Web出願の操作についての動画を視聴)
委員長	事務局から、出願者の入力の方等についての動画を紹介いただいた。それでは、委員の皆さんから、全国の状況や、河本委員の学校での導入等について、何か御質問等あるか。
	(質問なし)
委員長	では、5ページの3について、事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	Web出願の成果と課題、そして課題に対する対応例等について、事務局から説明があった。各都道府県の導入状況やシステムが同じではないため、対応の難しさも様々あるようだ。また、紙媒体でのやり取りの際にはなかった新たな対応策等も取る必要があることがわかる。高校入試の出願については、志願者本人や家族、志願者を送り出す中学校、そして出願を受け付ける高校、それぞれにとってわかりやすく安定したシステムが必要となる。委員それぞれの立場から、意見願う。まず保護者の立場から、平吹委員、いかがか。
平吹委員	保護者としてみれば、Web出願によって利便性がかなり向上すると思う。ただその中で、保護者も日中は仕事をしており、勤務中は出願に係る諸手続きができないということもあるので、Webでの手続きについても、帰宅後に行うということにはなる。先ほど説明のあった、選抜手数料の納付方法については、条例の改正が必要になろうかと思うが、そのあたりについてはぜひ頑張っていただきたい。やはり、日中に納付手続きということはなかなか難しいので、コンビニでの納付や、クレジットカードでの支払い等ができるようになれば、利便性が非常に高まると考える。
委員長	発言感謝する。では中学校の立場から、小野委員、いかがか。
小野委員	私立の調査書が公立と同じになっただけでも、中学校側としてはとてもありがたい。私立ではWeb出願が始まっているが、今のところ何もトラブルがないので、これも本当にありがたいことである。 子供たちが高校に願書を書いて出す時には、高校の先生が見てわかるように、少しでも丁寧に、と指導しているが、子供たちによって、本当に上手に書く子もいれば、上手ではない子もいる。上手ではなくとも、親に書かせるのではなく、やはり子供たち自身に書かせないといけないと考え、指導しているが、高校の先生方はそれを見てどのような印象で受け取っているのだろうかと考えることもあった。Web出願となれば、そのようなことは無くなる。中学校の業務負担が減るという点では良いのだが、願書を手で書くという指導の機会は無くなる。これまではかなりの時間をかけて願書を書く指導をしていたので、住所や高校名など、きちんと書けない状態で高校に送り出すというのは悩むところだ。
吉田委員	説明を伺って、改めて完全デジタル化は難しいということと同時に、現実性を考えると、やはり紙媒体も必要なのかなと感じた。願書記入の指導は、差し戻しのやりとりで学校側の負担になり、保護者に何回も連絡することについても、申し訳ないといつも思っていたのだが、実はそのやりとりがあるからこそ、家庭の方でも本気になって子供のことを考えていることが伝わるといふ側面もある。先ほど小野委員が話をされたように、大変なのは事実だが、実は指導のために子供に向き合うという利点もあった。ただ、やはり多くの家庭にとっては、その負担が軽減できることは大きい利点だと思う。もしかすると、現実的なのは部分的な導入、部分的なデジタル化ということもかもしれないと感じながら、話を伺った。

	<p>また、私立高校のWeb出願はとても使いやすく、家庭にとっても非常に良い。ネットでの申請が難しいという家庭のサポートは中学校でもできたし、高校側の支援もあったのが非常にありがたかった。県や市町村も、そういう形でWeb出願を実現できるのかなというイメージはあったのだが、条例等々の関係で難しいところもあると伺ったので、もう少し煮詰めて、議論を重ねていく時間が必要かと感じた。</p>
委員長	<p>発言感謝する。では、高校の立場からも意見願う。中山委員、いかがか。</p>
中山委員	<p>事務局からの詳しい説明に感謝する。高校の立場から今回の提案を拝見して、やはり出願手続きの簡便化という意味でのメリットが大きいと考える。私立高校での様子を拝見し、非常に合理的であると感じた。公立高校でそこまでできるのかは、先ほど説明のあった、選抜手数料の電子収納の難しさや、調査書をどのようにやり取りをするのかというところの難しさを含め、これからの検討になるのだろう。少なくとも、高校現場としては、出願を電子で受け付けることによって、従来のように何時に来るのかわからない出願を待つのではなく、ある一定の時間で出願データの処理ができるという点では、業務整理というところに大きく貢献すると感じている。できるだけそういった方向での検討をお願いしたい。</p>
委員長	<p>発言感謝する。他にいかがか。</p>
佐々木委員	<p>実は私も最近、子供が高校受験をし、その出願の際に私も子供と一緒に入力をしたが、まさにこのような形で出願ができれば、電子データがそのまま高校に届く。高校ではその電子データをそのまま使え、必要な情報をわざわざ転記する必要がないので、業務は軽減されるだろうと、実際に子供と出願をしながら、高校側の視点でも見ていた。そういった負担軽減の面では、Web出願が実現できればよいと思う。選抜手数料についても、私も実際、支払いをしたのは仕事が終わって夜になってからだったので、夜間に出願できるのは親からすると楽だとは思っているものの、条例で定められていることもあり、県では難しいだろうなどは感じる。そこをどう解決していくのか。また、これは本当に難しいと思うのだが、調査書のデジタル送信が可能になれば、入試だけではなく、入試後の様々なデータ処理等もかなり楽になり、業務軽減が実現すると思う。本当に、実現できればいいなという思いはあるが、まだまだ乗り越えなければならない壁があるので、そこをどうクリアしていけばよいのだろうか、と思う。</p>
茂木委員	<p>三つお話しする。一つは、このWeb出願導入は、4者（志願者・中学校・高校・教育委員会）にとって本当に良いものだと思う。できることから、段階的にやってもらいたいと思う。一気にできれば一番いいのと思うが…。ゴールとしては、調査書も電子データで高校に届く形がよいと思うが、それはハードルが高いようなので、まずできることから段階的に導入していくのがよい。</p> <p>二点目は、これは先の話になるが、導入にあたって、その説明会をどの時期から始めるかというスケジュールである。毎年、入試事務説明会は9月・10月の実施かと思うが、その時期は前倒しが必要だろう。Web出願についてのみ扱う説明会になるかは分からないが、説明する内容が増えると思うので、説明会のスケジュールを見直すことも必要だと思う。もし可能であればだが、例えば入力のための練習用サイトなどがあれば、中学校現場としては助かると思う。</p> <p>最後、三つ目だが、調査書の電子でのやり取りにおいては、市町村の教育委員会もセキュリティ面で関係してくる。しかし、市町村の教育委員会では、電子関係に詳しい方が実はそれほど多くはないようである。市町村の教育委員会と県教育委員会が連携を取るという場面が出てくると思うが、市町村の教育委員会においても、セキュリティについて対応が要求されると思うので、複数名、対応できる人員を用意してもらえようような要請なども必要ではないかと感じた。</p>
河本委員	<p>私立高校は単独で受験料の決済を行うが、公立高校全校に導入した場合にはどうなるのか、なかなか想像がつかないところもある。Web出願を導入して一番良かったことは、受験料の納付について非常に融通性があるというところだった。その点について、条例の改正が可能なのかどうか。すぐ、簡単にできるようなことではないと思われる。最初のうちは、印刷した志願票に収入証紙を貼付して出すという形も検討しながらではどうか。本校も、Web出願については毎年若干の変更、改</p>

	<p>良をしながらあたっている。すべてが完全になってから導入という形では、導入する機会を失ってしまうことも考えられる。そのようにして、時間をかけて完成させていく出願方法だと感じる。</p> <p>また、入力するときに心配されることとして、志願者に文字を打たせると、中学校名でも様々な表現が出てきて、データ処理に支障が出ることもある。本校の場合は、出身中学校については、すべてリストから選ぶような形にしている。出願が学校ごとにまとめてではなく、個人ごとにバラバラに来てても、中学校名でソートをかければ、自動的に中学校順に並べることができる。このように、どのようなやり方をすればデータを使いやすくなるのかという点も考えて、導入の検討をしていくとよい。</p> <p>調査書等については時間がかかるだろうとは思ふ。今後調査書の電子提出が可能になった場合には、逆に、中学校での事務的作業が増えてしまうのではないかという懸念もある。個人個人の調査書ファイルをパソコン上で開いて確認していくというより、紙媒体で確認した方が楽な部分もある。やはり、すべてを電子化という風にこだわらず、どの部分を電子で、どの部分を紙媒体で行った方がよいのかを考え、電子と紙を併用していくかどうかも含めて、考えていくのがよい。</p> <p>公立高校出願における調査書の扱いが変われば、私立高校での扱いも当然、変わっていかねばいけない、統一した方がよろしい、と考えているので、是非とも情報を共有させていただきたい。</p>
委員長	<p>様々な御意見をいただいたことに感謝する。公立高校入試のWeb出願導入にあたっては、これまでの審議にあったとおり、選抜手数料の電子収納や調査書の電子データ化に加え、セキュリティの問題や、宮城県という自治体として実施が可能かどうかということも、併せて考えていかなければならないと思う。</p> <p>本日はWeb出願の審議としては第一回目なので、本日の審議で皆様からいただいた御意見を踏まえ、事務局の方で引き続き今後の検討の準備を願う。</p>
委員長	<p>では、審議2に移る前に、ここで5分程度休憩を取る。3時30分から再開とする。</p>
	(休憩)
委員長	<p>では再開する。審議2、調査書の記載事項について、区切りながら進めていきたい。資料7ページの1について、事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>説明に感謝する。記載事項検討の必要性について、何か質問等あるか。</p>
	(質問なし)
委員長	<p>それでは、8ページの2について、事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>事務局が調査した、他県の状況について説明があったが、このことについて、もう少し詳しく知りたいことなど、質問があれば発言願う。</p>
	(質問なし)
委員長	<p>よろしいか。では、9ページに進む。事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>調査書様式と記載事項について、何か質問等はあるか。</p>
	(質問なし)
委員長	<p>では、続けて11ページについて事務局より説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>事務局より、記載事項検討の観点が表示された。イと口の2点だが、それぞれ分けて、委員の皆様にご意見願う。</p> <p>はじめに、3(3)のイ、調査書を構成する各項目について、入学者選抜に必要なかどうか、また必要とした場合でも、現状の記載の仕方によろしいか等について、ぜひそれぞれの立場から御意見いただければと思う。どの項目についても構わない。</p> <p>やはり、実際に調査書を選抜資料として使っている高校の委員から最初に意見をいただきたいと思うが、いかがか。中山委員、発言願う。</p>

中山委員	調査書の記載事項についてだが、選抜を行う上で、11 ページに示されている共通選抜の観点と特色選抜の観点がそれぞれあるので、その観点で高校は選抜を行うことになる。その際、調査書の記載を総合的に見ているので、これらの内容は非常に重要である。特に、部活動や生徒会活動、社会的な活動という部分に関しては、それぞれの高校が示している「求める生徒像」に照らして、その生徒像に近い生徒が出願してきているのか、そういったことを見る観点としては、非常に重要な部分がある。部活動の地域移行ということがあり、それをここにどれだけ表現できるかというのは悩ましい部分だ。その部分については、今のところなかなか良い案が見つけれない状況である。
委員長	発言感謝する。佐々木委員、茂木委員、いかがか。
佐々木委員	私も中山委員と同じ考えである。特色選抜の欄にも記載がある通り、各高校が調査書を総合的に審査する場合、「求める生徒像」で示しているポイントに沿って生徒を見ると、調査書の記述内容から拾っていくような形になる。どの項目が必要で、どの項目が必要でないかという審議だが、まだ結論としては意見を言いつらいところである。総合的にみて生徒を選抜したいところなので、どれが不必要かといったところは、非常に難しい。
茂木委員	正直悩ましい。高校は総合的に判断するため、情報はあればあるほど良い、という立場だ。ただ一方、中学校での勤務経験がある立場としては、作業量という観点だけではなく、生徒にとっての有利不利ではないのだが、例えば、学習の記録については、何らかの事情で評価する材料が乏しい場合は、ある学年、ある教科においては空欄にするということもある。そのように、必ずすべてを書かなくてはいけないものなのかという視点もあるので、この1から7までの記載項目の中で、受験生にとってという視点で考えてみた場合には、真に必要なものかどうか、議論の対象になるものもあるのかなと思う。ただ、具体的にどれがというわけではないのだが。高校側の立場からすれば、資料は選抜の材料になると思う。
委員長	発言感謝する。河本委員はいかがか。
河本委員	本校もこの調査書様式を使わせていただいているのだが、確か平成20年頃に、比較的簡略化した、この調査書様式になったと記憶している。世の中の情勢として、観点別評価など、中学校における評価の仕方が変わってきたところもあるが、入試においてそこまでの情報が必要なのかということもあるので、現在のところは、この様式でいいのかなと思う。 ただ、一つだけ気になるのが、この欠席日数である。感染症の流行もあったし、例えば別室登校や保健室登校している生徒は欠席として扱わない場合もあるので、その欠席日数という数字が示す意味合いが、なかなか真実を捉えづらい状況にある。では、その捉えづらい数字が、調査書に記載する情報として本当に必要なのか。中学校では、欠席日数が少ない生徒でも、今後のことを考えて、中学校ではこういう傾向があったので、指導にあたってはこういうことに配慮してくださいと副申書等を付ける場合もあり、それは非常に助かっている。高校に入学した後に、できるだけスムーズに、その生徒の実情に合うような指導をしていきたいという点では、この調査書の欠席日数よりは、中学校での様子を事前にお知らせいただくことがあってもいい。各学校で、どのような形で調査書を使っているのか、私立高校様々であるが、現在のところは、欠席というところが気になる。
委員長	発言感謝する。では、この調査書を記入する側である、中学校の委員から意見願う。
小野委員	特色選抜のところに、評定以外の記載事項も参考とするとは書いてあるが、7ページの文科省通知に「真に必要な事項に精選して」とあるように、中学校では昔ほど細かくは書かなくなっている。大崎地区は出願倍率が低いこともあり、高校の先生方が、3月末から大体5月あたりにかけて、入学した生徒についての情報交換のために、わざわざ中学校を訪問してくださっている。細かいことはだいたいその機会にお伝えすることができるので、調査書は本当に必要なことを書くという流れに変わってきている。 私個人としての意見になるが、合格すれば指導要録を高校にお渡しするので、指

	<p>導要録も、これに似た内容を高校側に伝える機会となる。中学校では小学校から指導要録をいただくのだが、小学校の先生方は1年生から6年生まで非常に細かく書いてくださる。それを読むのもなかなか大変なのだが、後から何か起きた時に読み返すと、「3年生の時にこんなことがあったのか」、「6年生の時はこんなことがあったのか」など、書かれている内容が指導のヒントになることもあるので、指導要録については、詳細に書いたほうが良い。</p> <p>総合的な学習の時間については、指導要録に記載している。道徳と同じで、指導要録の方に記載するのだが、判断材料に総合的な学習の時間を入れられると、担任がどのように文で表現するかが難しい。目標に照らして、この学習をすることによって、どういう力が育ったかというところを記載しようとしているので、そこをきちんと伝えられるように書かれているかが、先生方が調査書の点検をする際、一番引かかる部分になっている。</p> <p>それから、欠席の状況の欄は、先ほどお話にあがったが、あったほうがよいと思う。例えば、3年生では欠席が少なくとも2年生の時に不登校の時期があったなど、高校に伝えるだけでも、後からの引き継ぎの時に話しやすい。中学校の一番の課題は、不登校生徒が増えていることである。先ほど高校の委員からもお話が出ていたが、中一ギャップへの対応と同じように、高校入学後すぐに高校生活に馴染んで、楽しい生活を送ってもらうための材料としては、欠席状況欄はあったほうがよいと思う。</p>
吉田委員	<p>石巻管内でも調査書は精選し、端的に事実や特筆すべきところを記載している。書いている中で、我々中学校教職員の葛藤もある。高校の先生方がこれを読んで判断できるのだろうか、どういうところをここから読み取りたいと感じているのだろうかと思いつつ書いている。「この表現だと、この生徒のこの良い部分は見えない、何とか表現したい」と思いながら、調査書を作成している状況である。ただ、特色選抜に「総合的に判断する」とあるので、調査書は判断材料になっているというところを踏まえて、私たちも作成している。調査書に現れない部分で、どうしても書面で伝えたいという内容については、先ほど話にあがったように、副申書という形で添付したり、小野委員が話された、直接のやり取りで伝えたりというところだ。</p> <p>部活動の記載については悩ましいところ。特筆すべきところについては記載しやすい。校外の活動についても、「受賞した」という結果だけであれば、生徒から聞き取って書けるものである。進路学習の一環として、生徒たちに自分のアピールポイントや、部活動でどのように頑張ったかなどを、面接の試験がない生徒も含めて、書面で書かせたり、工夫して聞き取りをしたりしているという状況がある。担任がすべての部活動を見られるわけではないので、各顧問に直接聞く場合もあるが、生徒たち自身からの言葉というものはすごく大きいと思う。部活動が地域に移行した際にも、スポーツ面での活躍や、社会や地域に出てどのような活動をしているのかというのは、高校が知りたい情報だと思う。ボランティア活動や地域での頑張りにについても、生徒たちから聞き取る機会をつくっているので、記載できる欄があることは、生徒たちにとってはプラスだと感じる。</p>
委員長	<p>発言感謝する。最後に、評価を受ける側、保護者側として、平吹委員から意見願う。</p>
平吹委員	<p>なかなか難しいのだが、保護者としてみれば、こういった調査書を保護者が見る機会があまりないのかなと思っている。例えば、このような調査書を書く、このような項目がある、ということ保護者に教えていただいて、そして保護者と子供が、家庭教育というわけではないのだが、「こういうことを頑張っていこうね」というような形で話をすることで、調査書が、家族の絆を深めていく一つの指標になればいいのかなと感じた。もし、そういった形で、調査書について保護者にも教えていただければ、各家庭、保護者は助かると感じた。</p>
委員長	<p>発言感謝する。では次に(3)、部活動の地域移行に伴って、部活動の活動状況の記載についてどうするかという観点である。すでに多少の意見をいただいているところだが、やはりこれも難しい問題だ。部活動の地域移行については、中学校を設置する各市町村の状況によって異なることも多いかと思う。調査書の作成にあたっては、やはり中学校現場からの意見が非常に重要であり、高校にとっても、調査書の記</p>

	<p>載事項を用いて選抜を行うので、生徒の部活動の頑張りについては情報として必要な部分もあるかと思う。</p> <p>先ほどからすでに意見をいただいているところではあるが、この点について、さらに何か補足等あれば、意見願う。では、中学校の委員から、部活動の地域移行について調査書をどうすべきか、何か意見や補足があればお願いしたい。</p>
小野委員	<p>地域移行が本当に温度差なく、どの市町村でもできるのだろうかという状況に今はある。まだ全く整備されていないところもあれば、少しずつ始まっているところもある。そして、部活動についての記載にあたっては、記入欄はどこだったか、4の(4)その他の欄か、7の欄だったかと、一年経つと忘れていた状況である。部活動が完全に校外に移行となると、記載は難しいとは思いますが、このまま、4の(4)その他の欄にしておいていただくと、中学校側は助かると思う。</p>
委員長	吉田委員から何か補足はないか。
吉田委員	先程お話ししたとおりである。
委員長	では、高校の委員から、この点について何か意見願う。
中山委員	<p>それでは、高校側の視点でお話するが、やはり今、部活動の移行が進んでいる地域、競技は様々であると思う。生徒の中には、その高校の、その特定の部活動で頑張りたいたから、その地域で活動している、中学校にはなかなかそういう部活がない場合もある、という話も伺っている。子供たちが中学校時代に頑張ってきたことを評価する、それがここに示された方がよいのではないか。ただ、先ほどから話にあがっているように、地域移行になった時には、それを中学校が把握する難しさということはある。しかし、現在一部の競技においては、すでにクラブチームに所属していて、そこで高い成績実績を上げてきた子供たちがいて、それが実際に特記事項等として記載されてくるケースもあるので、高校側とすると、そういう記述があったほうが助かるし、子供たち自身の自己アピールとしても、非常に大きなポイントになるのではないかと考える。ぜひ、子供たちの中学校時代の活動、これを我々も見せていただきたいと思う。</p>
委員長	発言感謝する。他にいかがか。
小野委員	<p>先程、言い忘れてしまったのだが、4(4)その他の欄にしていってもらいたいという理由の一つに、地域移行に伴って、部活動の加入を任意とする中学校が非常に増えている。部活動にだけ特化されると、部活動について記載がない子供にとってはどうかと思うところがあるので、オブラートに包んでいただいている今の形が私はありがたい。</p>
委員長	発言感謝する。保護者の立場から、この点いかがか。
平吹委員	<p>現状、その中学校に希望の部活動がないので、クラブチームに入って活動しているという場合もある。保護者としてみれば、やはりそういったところを調査書に書いていただいて、高校の先生方に見てもらいたい。将来、部活動が地域移行となった時には、例えばコーチや監督が、活動状況を見てくれていると思うので、それを、先生方と共有していただければと思う。</p> <p>あと、これもPTA活動の一環になってくるかとは思っているが、そういった地域の方々が、子供たちを見て、先生方に「こういう子供なんだよ」とアピールすることで、先生方にも情報が伝わり、生徒たちについてよりよく書いていただければいいのかなと思っている。方法はいろいろあると思うので、それを検討しながら、今後の課題解決に臨んでいければと思う。</p>
委員長	発言感謝する。他に意見いかがか。
	(意見なし)
委員長	<p>よろしいか。様々な意見をいただき、非常に助けになった。現行調査書様式の課題や、修正の要否、また、改善の可能性について引き続き検討していく上で、参考となる意見を多数いただけたと思う。最初に審議したWeb出願についても、本県での導入を考えた時に、望ましいシステムのあり方について審議を深めていく情報共有を、今日ある程度できたのではないかと思う。</p> <p>今日の検討のまとめや更なる調査等、引き続き事務局にお願いして、次回の審議につなげていきたい。それでは、時間を多少超過してしまったが、本日の審議はこの</p>

	あたりで終了したいと思う。 事務局から連絡等あればお願いします。
事務局	(事務局より事務連絡)
委員長	それでは、本日の審議内容の整理と次回の開催日程の調整について、事務局よろしくお願いします。 本日の審議はこれまでとし、進行を事務局にお返しする。
事務局	(閉会)